

大規模農業経営を目指す皆さまへ

応援しています



# 大分県で大規模園芸団地に チャレンジしてみませんか？

今後10年、20年先も農業を営み、農村地域を守り**持続的に発展させていくためには、収益性が高く地域・産地をけん引する力強い担い手を数多く育成・確保していくことが大事です。**

その一つとして、**より効率的で競争力の高い営農モデルの実現が必要**であることから、大分県では**数ヘクタール規模のまとまった農地に、圃場の大区画化や用水施設の設置、農道拡幅などを整備した大規模園芸団地の計画的整備を推進**し、意欲ある担い手の参入や経営拡大を強力に支援しています。

## 大規模園芸団地 10+プロジェクト

県・市町・農業関係団体で構成された推進体制「農業成長産業化推進本部」のもと、県内に概ね10ha以上の大規模園芸団地を10年間(2024~33年)に10団地以上、新たに整備することを目標に取り組んでいます。



マークの団地は裏面で紹介しています

### 県内の大規模園芸団地

## “大規模園芸団地のメリット”

### 生産者のメリット

- ① 圃場や各種施設の効率的な規格・配置
- ② 機械化やスマート機器活用による営農の省力化、高度化
- ③ 働きやすい環境整備による労働力確保
- ④ 複数品目、品種の導入による周年雇用
- ⑤ 大ロット生産による有利販売

### 地域のメリット

- ① 未利用農地の再生、有効活用
- ② 営農モデルとして新たな担い手を呼び込む好循環の実現
- ③ 生産額増加、雇用促進等による地域経済への波及効果
- ④ 農業従事者の増加による地域農業、周辺農地保全等への好影響
- ⑤ 交流人口増加等による地域連携・貢献

農地確保から優良農地化、施設・機械整備、営農指導など重点的にパッケージで支援をしていきます！

県、市町、農業関係団体が一体となってサポートします！



お問い合わせ

大分県農林水産部農林水産企画課

〒870-8501 大分市大手町3丁目1番1号 TEL. 097-506-3552 FAX. 097-506-1757



地元  
生産者

## 豊後高田市 | 白ねぎ団地



- 参入経営体=尾上誠、ほか生産者2名
- 団地面積=5.89ha ● 経営面積=豊後高田市 5.2ha / 九重町 0.8ha
- 参入スケジュール=R1 県営水田畑地化推進基盤整備事業 白野地区スタート(R9までの予定、事業面積5.9ha、区画整理 / 暗渠排水 / 農道舗装等) → R2 新規就農 → R6 団地での営農開始
- 活用した支援事業=県営水田畑地化推進基盤整備事業

## 海外展開も目指したい



豊後高田市 中真玉  
尾上 誠さん

以前は東京の企業で働いていましたが、家業を継ぐために帰郷し、令和2年に就農しました。豊後高田市は白ねぎの産地。もともと呉崎で栽培をしていたのですが、規模拡大を目指して土地を探しても、小さな耕作放棄地が多く、ある程度まとまった農地が見つからないのが悩みどころでした。そんな時、タイミング良く行政の方から「団地ができるから入植しないか」とお声がけいただき、入植を決めました。

以前から家業を手伝っていたので、白ねぎ栽培のノウハウはありましたが、海に面した団地の土壌は水分や成分のバランスが難しく、試行錯誤をしているところ。そんな中、県の事業で暗渠排水などの設備を整えてくださったり、肥料設計と一緒に考えてくださったりと、行政の方々から手厚いサポートをしていただいています。おかげで初めて団地で収穫した白ねぎは、いい出来でした！ 今後はさらに売上を伸ばし、白ねぎがまだ大きく普及していない海外への輸出も実現したい。夢を持って挑戦を続けます。



参入  
企業

## 国東市 | オリーブ団地



- 参入経営体=キュウセツ AQUA(株) ● 団地面積=38ha
- 経営面積=オリーブ 26.1ha、柑橘・ナッツ 1.0ha
- 参入スケジュール=H27 国東市常緑果樹研修所跡地(北側)賃貸契約公募にて審査合格 → H28 協定締結 / オリーブ栽培(16.8ha)開始 → H30 オリーブの初収穫 → R1 県営農地耕作条件改善事業 安国寺地区スタート → R6 日本最大級のオリーブ園完成
- 活用した支援事業=県営農地耕作条件改善事業、果樹先導的取組支援事業、国東市オリーブ苗木購入促進事業

## 観光農園の実現に向けて

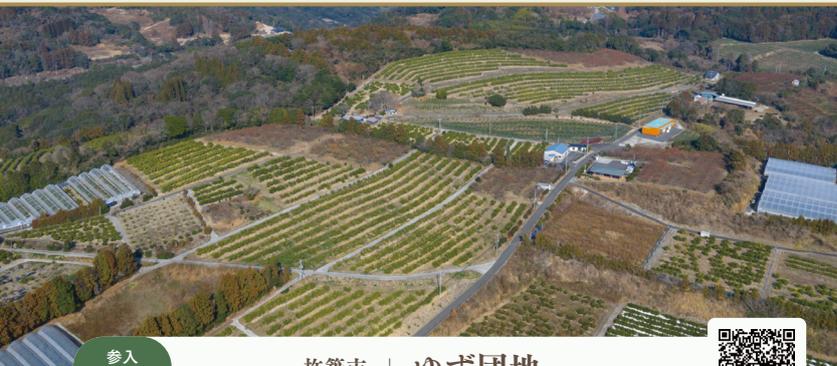


キュウセツ AQUA(株) / 国東クリーブガーデン  
アグリ事業部 オリーブ事業推進室長  
大野 貴博さん

当社は福岡を拠点に、北部九州を中心に上下水道の維持管理を手掛けています。会社創設50周年の節目に、事業拡大と地域貢献、社会貢献を考え、農業に参入しました。

企業ならではのスケールメリットを活かせる大規模農地を探していたところ、国東市と出会い、国の常緑果樹研修所跡地で賃貸契約を結ぶことができました。行政の方々が熱心だったこと、そして国東市が地域一体となってオリーブ栽培に取り組んでいることが大分を選んだ決め手となりました。実際、造成から定植、栽培開始から現在に至るまで県や市の方々には多くのサポートをいただいています。特に、情報の取得や手続きが難しい補助金について、アドバイスをいただいたのがありがたかったです。圃場の整備や苗木の購入などさまざまなことに活用しました。

現在、栽培しているオリーブの木は約4500本。高い品質を追求し、食用のオイルだけではなくオリーブの特性を活かした化粧品の開発にも力を入れています。将来は観光農園化も目指し、売上の向上とともに、さらなる地域活性化にも貢献していきたいと考えています。



参入  
企業

## 杵築市 | ゆず団地



- 参入経営体=(株)大分サンヨーフーズ ● 団地・経営面積=22.9ha
- 参入スケジュール=H20(株)大分サンヨーフーズ設立 → ~H22 荒廃園を整備(園地造成、ゆず1万本新植、園内道路整備等) / 倉庫改修 / 農業機械導入 / 新規品目(梅)導入 → H24 ゆず初収穫 / 新規品目(大麦若葉)導入
- 活用した支援事業=耕作放棄地再生利用推進事業(造成)、ブランドを育む園芸産地整備事業(新植、用排水施設、園内道路、防除機等機械導入)、企業等農業参入推進事業(倉庫、トラクター導入)、耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(耕作放棄地解消)、次世代を担う園芸産地整備事業(草刈り機導入)

## 細やかな経営で成長を実現



(株)大分サンヨーフーズ  
社長 東照寺 忍さん

飲料の開発・販売を手掛ける(株)サンヨーフーズの長谷公治会長は、杵築市出身。そのご縁で大分県から農業参入のお話をいただき、会長の「地元で貢献したい」という思いとマッチングして(株)大分サンヨーフーズが発足しました。事前に県と市によって集約された耕作放棄地を紹介していただき、もともと植えられていた梅に加えて、1万本のゆずを定植。営農開始にあたっては、行政が栽培計画を立て伴走してくれたことも助かりました。

大分といえばカボスですが、ゆずを選んだのは全国的にニーズが高く、生産量を上げられると考えたからです。行政に支援をしていただきながら、経営は順調に軌道に乗り、現在の売上は当初の20倍以上に成長しています。そのために努力しているのは、やはり品質の維持。ゆずの実を少しでも高く購入していただけるよう、剪定の際に傷の原因となるトゲを除去するなど、細かな管理を心がけています。

売上は社員にも還元し、やりがいを持って働ける環境づくりにも気を配っています。その中から後継者が育ってくると嬉しいですね。